

平成28年3月30日

関係各位

船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
校長 徳 永 啓 介

平成27年度改善方策に対する改善結果

1. 生徒の「進路指導」について

【改善方策】

- (1) 「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」に対しては、1年生で否定的評価の割合が高い。それは、総合的な学習の時間として実施している職業講話を3学期、職業調べを冬休みに実施していることも要因となっている。今年度は、「私たちの進路」の活用方法を検討し、道徳、特別活動、各教科の授業等全教育活動を通して、日頃から、「将来の生き方や進路」について考える機会を設定していく。
- (2) 「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」、「進路に関する情報が十分提供されている」に関しては、1、2年生で否定的評価が高い結果が続いている。(1)の方策に示してあるように、「将来の生き方や進路」への意識化を高めることにより、年間で設定している面談期間だけでなく、いつでも誰にでも進路について相談できる雰囲気を作っていく。進路情報に関しては、上級学年が行っている進路に関する取り組みを学年便り等を通して紹介していく。

【改善結果】

保護者アンケートでは、「本校は、子どもに将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している」の肯定的評価が68%（昨年度60%）、否定的評価が14%（昨年度21%）、「本校は、進路について十分な情報提供がされている」の肯定的評価が65%（昨年度57%）、否定的評価が20%（昨年度26%）、「本校は、進路について保護者が相談する機会が提供されている」の肯定的評価が68%（昨年度64%）、否定的評価が17%（昨年度19%）、「本校の教員は、親身になって進路の相談にのっている」の肯定的評価が59%（昨年度54%）、否定的評価が16%（昨年度16%）という結果であり、肯定的評価の割合が増え、否定的評価の割合が減り、改善されていることが確認できた。

生徒アンケートでは、「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」の肯定的評価が81%（1年74%、2年84%、3年86%、昨年度69%）、否定的評価が13%（昨年度24%）、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」の肯定的評価が56%（1年42%、2年45%、3年79%、昨年度47%）、「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的評価が66%（1年47%、2年63%、3年88%、昨年度54%）、否定的評価が24%（昨年度34%）という結果であり、肯定的評価の割合が増え、否定的評価の割合が減り、改善されていることが確認できた。

今年度は、キャリア教育の学習内容と実施時期を見直し、計画的に実施した結果、生徒アンケート「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の1年生の肯定的評価が大きく上昇した。

朝礼での講話をとおして「将来の生き方や進路」への意識化を高め、年間で設定している面談期間だけでなく、いつでも誰にでも進路について相談できる雰囲気作りをしたことにより、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的評価が上昇した。

上級学年が行っている進路に関する取り組みを学年便り等を通して紹介していくにより、保護者アンケートの「進路に関する情報が十分に提供されている」は66%（昨年度54%、一昨年度47%）と年々上昇している。

2. 「学力」について

【改善方策】

- (1) 学力の三要素として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成」「主体的に学習に取り組む態度」が示されており、このバランスをとることが大切であることを、保護者会、教科別説明会、学校便り、学年便り等を通して保護者に啓発するとともに、日々の授業で実践していく。
- (2) 家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る。1、2年次には、フナキボミニマムを定期テスト前に実施し、基礎基本を定着させるための学習習慣を身につけさせる。
- (3) 思考力、判断力、表現力を育成するため、教育目標である「深く考え行動する、学ぶ意欲のある生徒」を意識させ、授業では、話を静かに聞くだけでなく、常に疑問をもち、解決策を考え、話し合い活動等を通して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする力を育成する。

【改善結果】

生徒アンケートでは、「授業の内容は、よく理解できる」の肯定的評価が85%（1年81%、2年84%、3年90%、昨年度83%）、否定的評価が12%（昨年度16%）、「先生は黒板の書き方やプリントなどわかりやすく指導している」の肯定的評価が87%（1年88%、2年84%、3年90%、昨年度86%）、肯定的評価の割合が増え、否定的評価の割合が減り、改善されていることが確認できた。

保護者アンケートでは、「本校は、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の肯定的評価が71%（昨年度66%）、否定的評価が15%（昨年度19%）、「本校は、授業をととして、子どもたちに学力がついている」の肯定的評価が65%（昨年度59%）、否定的評価が24%（昨年度30%）という結果であり、全体的には、肯定的評価の割合が増え、否定的評価の割合が減り、改善されていることが確認できた。しかし、学年別に見ると肯定的評価が下がっている学年もあり、今後もこの数字を課題として捉え、本校の学習指導のさらなる充実と周知を図っていく必要がある。

3. 「世田谷9年教育の『学び舎』の活動」について

【改善方策】

現在行っている取り組みを継続させ、成果をHP等を活用し広報する。また、子どもの交流については、現在行っている「子ども駅伝」の取り組み以外にも部活動を通じた交流について検討していく。

【改善結果】

生徒アンケート「『学び舎』の区立小学校との交流が活発である」の肯定的評価が51%（昨年度40%）、否定的評価が27%（昨年度35%）、保護者アンケート「近隣の小・中学校で構成される『学び舎』による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の肯定的評価が73%（昨年度61%）、否定的評価が7%（昨年度15%）、わからないが20%（昨年度24%）、地域アンケート「『学び舎』の活動について、十分な情報が提供されている」の肯定的評価が77%（昨年度52%）、否定的評価が15%（昨年度42%）で、肯定的評価の割合が増え、否定的評価、わからないの割合が減り、改善されていることが確認できた。これは、あいさつキャンペーンや世田谷子ども駅伝の取り組みが認知されてきたことと、ホームページなどの広報活動の充実が要因であると考えられる。